

令和4年度 檜原村立檜原中学校経営計画

檜原村立檜原中学校長
校長 糸井 一雄

1 目指す学校像

檜原学園の教育理念「一人一人の個性を生かす『生きる力』を育てるために、児童・生徒一人一人に視点をあてた一貫教育を行う」に基づき「一人一人が、郷土檜原の誇りを胸に、9年間の学びを深め、持続可能な社会の創り手となり、希望に満ちた世界を創る人材（グローバル人材）となることを目指し、

『学びをつないで持続可能な社会の創り手を育てる』という新しい学園目標を具現化する学校をめざす。 <学園訓：つなぐ つなげる つながる>

- (1) 基礎・基本を確実に身に付け、活用できる力を育む学校
- (2) 檜原村を愛し誇りに思い、豊かな人間性を育む学校
- (3) たくましく生きるための健康や体力を育む学校

★ ビジョン

生徒も教師も高め合える学校

～檜中で学べて良かった～

～檜中で働けて良かった～ <チーム檜中>

2 目指す子供像

- (1) 自ら学ぶ檜原の子供
- (2) 明るく素直で、感性豊かな檜原の子供
- (3) 元気な体をつくる檜原の子供

3 教育目標

- (1) 学び考える人 [主体的に学ぶ力] 自ら学ぶ姿勢を身に付け、課題解決することができる生徒
- (2) 心の豊かな人 [主体的に判断する力] 自ら考え、他者の意見を聞き、判断することができる生徒
- (3) たくましい人 [健やかな心身を育成するための実践力]
心身ともに健康であり続けるために、何事にも挑戦し、自らを鍛えることができる生徒

4 中期的目標と方策

- (1) 基礎・基本を確実に身に付け、確かな学力を育むために
 - ①檜原学園第三期計画に基づき9年間を見通した系統性・連続性を意識した指導を行い、檜原学園の子供たちの学力向上に繋げる。
 - ②各教科において育成すべき資質・能力の三つの柱を意識した指導法の工夫改善を行う。
 - ③情報活用能力を高めるため、ICTを活用した授業の研究・推進を行う。
 - ④特別支援教育の理解を深め、個に応じた教育を推進する。
- (2) 檜原村を愛し誇りに思い、豊かな人間性を育むために
 - ①豊かな自然や素材、地域人材の活用で地域の特色を生かした教育活動を展開する。
 - ②各教科や様々な教育活動を通して檜原村について考えられる力の育成を行う。
 - ③道徳授業をはじめ、全ての教育活動の中で豊かな情操と心を培う指導を行う。
 - ④総合的な学習の時間を中心に檜原学園のSDGSカレンダーに則った探究型の学習を推進する。
- (3) たくましく生きるための健康や体力を育むために
 - ①心身の健康指導を実践し、一人一人の児童・生徒に寄り添った細やかな指導を行う。
 - ②自主・自律・共生の精神を培い、個性の伸長を図り、充実した学校生活を実感させる。
 - ③学校生活全般を通して体力の向上を目指した指導を行う。

●令和4年度 中心的に取り組む内容

1. 檜原村の未来を考えられる力の育成

現在の中学生在が成人となる将来は、予測困難な時代である。それゆえ自ら考え、道を切り拓いていく力を育てる必要がある。そのためには身近な檜原村の未来を考えられる力を育むことが大事と考える。小学校で学んだことを基に檜原のことをさらに調べ、檜原村の今後はどのようになっていくと良いのか檜原村の未来について、SDGsの観点も取り入れ考えることでその力を育てる。各教科指導や様々な教育活動を通して自分たちの故郷を大切に思い、檜原村の未来を考えられる力の育成を行う。（ふるさと檜原学習）

到達目標

- 1年生…檜原村のことを知る、学ぶ
- 2年生…檜原村の利点、課題について考えられるようになる
- 3年生…檜原村の未来について自分なりの考えをもてるようにする
2. 主体的に学び合う生徒の育成
3. 特別支援教育の理解
4. 学習の基盤となる能力の育成…特に、情報活用能力の育成を行う
5. ICTを活用した授業実践

●校内研修について

「主体的に学び合い、共に成長できる生徒の育成」を目指して

- 1 ICTを活用した授業実践（教員同士による授業力向上研修）
- 2 特別支援教育の理解
- 3 OJTの推進（授業などのアドバイスを教員間で活性化させる）

【取り組み目標】その1

基礎・基本を確実に身に付け、確かな力を育む教育活動を実践する。

◎小中一貫教育、檜原学園第三期計画に基づき9年間を見通した指導の実践と検証

- ・小学校との合同行事、合同学習や交流学习の充実
- ・小学校との各教科、その他の連携
年1回以上、小学校での授業交流を実施する。
- ・9年間の系統性・連続性を意識した取り組みの実践

◎生徒の学力向上を図る取組

(1)教科横断的な学習を充実し、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識した授業改善の推進する

授業の方法や技術の改善のみを行うのではなく、生徒がどのように変容したかが大切

・ICTの積極的な活用

電子黒板やタブレットPCを活用した指導を積極的に取り入れる。

全教科で、全教員がICTを活用した授業を実践する。

・見通しを立てたり、話し合い活動をしたり、振り返ったりする学習活動の実施

①授業の最初に今日学ぶ内容を示す

②ペア、複数、最大数でも4人までのグループ学習をし、学び合いや友人の意見から自分の考えを再構築する

③授業の最後に今日の授業で何が理解できたか書かせる

→ 生徒の書く力の育成、教師側の理解度の確認（授業改善と評価に繋げる）

(2) 確かな学力を育むために

- ・「自分の考えをもたせ、それを他者にきちんと伝える場面」を多く設定
- ・「読解力」の育成を意識した教科指導の実践
- ・自ら学ぶ力・自ら考える力の育成。コミュニケーション力の育成

(3) 学習の基盤となる能力の育成・・・「情報活用能力」の育成

情報活用能力とは・・・

「情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力」

ICTの活用も含まれる

◎特別支援教育について

- ・特別支援教育のさらなる理解と個に応じた指導方法の推進
- ・SC、心理士、専門的な外部機関と連携した指導の推進

◎キャリア教育の充実

- ・キャリア・パスポートを活用したキャリア教育を行い、生徒の自己実現に繋げる。

◎教員のOJTの推進

- ・組織的な人材育成を行うために、学期末にOJTの内容をまとめ記録する
- ・各研修会の報告を職員会議等で行い全職員で共有する
- ・OJT推進のためのミニ研修会の実施

【取り組み目標】その2

檜原村を愛し誇りに思い、豊かな人間性を育む教育活動を実践する。

◎檜原村を考える教育

「総合的な学習の時間」「特別活動」の年間計画の充実

1. 総合的な学習の内容の再構築と更なる充実を図る

総合的な学習の時間を軸として、「檜原村の未来を考えられる人」の育成を目指す
SDGsカレンダーの活用と再検討

2. 特別活動の内容見直し

キャリア教育との関連確認

◎キャリア教育の充実

将来、自らの人生を自分で切り拓く力を育成するために、小学校で学んだことを踏まえ身近な檜原村のことを調べ、未来の在り方について考える

<1年 職業人講話>

働くことの大切さと今ある職業について知るとともに、檜原村で仕事をしていらっしゃる人の苦勞や地元に対する思いなどの話を聞く機会をつくる

(例 林業、食品業(こんにゃく)、観光業(旅館))

<1年 身近な職業調べ>

今後持続可能な職業を中心に、村内の仕事・産業についても調べ。

<2年 職場体験>

体験場所はふるさと檜原学習の一貫として村内の事業所に依頼

○「特別の教科 道徳」

各項目の確実な実施 適正な評価の実践

○国際理解教育の推進

- ・留学生を招いた国際交流会の実施（日本文化紹介）（6月）
- ・東京グローバルゲートウェイにおける英語活動の実施（7月）
- ・海外の音楽団を招聘した国際交流会の実施（10月）

○安全教育の充実

- ・SOSの出し方に関する教育の実施（全校対象）

○学校図書館の活用と環境の整備

- ・学校図書館の生徒が活用しやすい環境づくり
- ・活用方法の更なる充実を図る

【取り組み目標】その3

たくましく生きるための健康や体力を育む教育活動を実践する。

◎学校生活全般を通じた体力の向上に特化した教育活動の推進

- ・専門的競技経験のある選手を招聘した実技指導の実践（空手を予定）
- ・生徒の体力・文化向上に向けた取り組みの実践（運動会に向けた取組、マラソン大会）

◎校内の教育相談体制の充実と外部機関との連携

- ・生徒一人ひとりに配慮した指導の充実

不登校を出さない日々の教育活動実践、生徒の悩みを受け止め、寄り添った指導の実践

- ① 生徒に寄り添った個別指導の充実
- ② 生徒の心の変化の早期発見と適切な初期対応を心がける
- ③ 保護者、SC、心理士、関係機関との連携、相談体制の充実

◎健康・安全に関する学習の充実

- ・防災教育の充実（様々な自然災害を想定した避難訓練の実施）

◎部活動の充実

- ・陸上部・吹奏楽部の活動を通して地道に努力することによる成功体験を味わわせる

◎放課後活動の充実

- ・部活動に所属していない生徒の帰属意識を高める活動を実施
- ・余暇活動を通じて心身の安定を図るとともに、学校生活を充実させる

その他

○学校広報活動の充実

- ・ホームページの積極的な活用、保護者だけが見られる学校の様子、写真を毎日更新。
その他広報活動の実施